

施策番号	0601		
施策名	すべての市民が京都のまちを支え、かつ誇りにできる文化芸術創造のまちづくり		
概要	京都の先人たちの文化を受け継ぎ、幅広い市民が多彩な文化芸術に気軽に親しめる環境をつくとともに、文化芸術に関する子どもたちの教育や文化芸術による地域のまちづくりを進める。		
担当局・部室	文化市民局・文化芸術都市推進室	共管局・部室	
上位政策	6 文化		
施策に関係する主な分野別計画等	京都文化芸術都市創生計画		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名	24年度	25年度	26年度評価						
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウエイト	
1 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動を行う市内NPO法人数(団体)	a	b	342	351	362	97.0%	c	1.00	
2 京都市後援名義使用許可数(件)	c	a	396	419	396	105.8%	a	1.00	
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
		b	a	客観指標総合評価				b	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	26年度回答					有効回答者数	評価	
	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない			
1 市民の生活に文化芸術がとけ込んでいる。	47	197	165	77	40	526	c	
	8.9%	37.5%	31.4%	14.6%	7.6%			
2 文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。	70	216	169	41	16	512	b	
	13.7%	42.2%	33.0%	8.0%	3.1%			
3 -							-	
4 -							-	
5 -							-	
						市民生活実感調査総合評価		b

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					25 年度	B
	重み付け	<input type="checkbox"/> 客観指標	b	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の実感	b		
(重み付けの理由) 当該施策は、市民が文化芸術の支え手として誇りをもつことをめざしているため、市民の実感を重視する。						24 年度	B
(原因分析) 【客観指標】 ●学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動を行う市内NPO法人数については、全国的に登録者数が増加傾向にあり、本市においても前年度から数値が若干増加したものの、目標値を達成することができず、b→c評価に悪化した。京都市では既に他都市に比べて登録者数が多く、伸びが緩やかになったことが原因と考えられる。 ●京都市後援名義使用許可件数については、前年度に引き続き目標値を上回り、a→a評価と高い評価で安定している。国民文化祭以降、文化芸術活動の機運が一定盛り上がる傾向にあったことが影響しているのではないかと考えられる。 【市民の実感】 伝統文化の継承や芸術系大学の集積といった京都の強みが反映された結果であり、また、文化芸術が身近に感じられる環境の構築が進んだことにより、昨年度に引き続き総合評価がb評価となったものと考えている。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		26年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		25年度 決算額	26年度 予算額		
1	国家戦略としての京都創生の推進	65,028	67,963	良い	総合企画局
2	文化ボランティア事業	4,978	4,935	良い	文化市民局
3	京都文化祭典	51,380	49,946	良い	文化市民局
4	京都文化芸術都市創生条例の推進	10,560	19,227	良い	文化市民局
5	子どもが文化芸術に親しむための取組	4,939	4,555	良い	文化市民局
6	京都市キャンパス文化パートナーズ制度	2,108	2,395	かなり悪い	文化市民局
7	京都国際現代芸術祭の開催	35,200	241,798	良い	文化市民局
8	京都文化芸術プログラム2020(仮称)の策定及びリーディング・プロジェクトの実施	—	61,922	—	文化市民局
9	京都国際映画祭	—	5,781	—	文化市民局
10	無鄰菴	12,268	13,069	良い	文化市民局
11	京都映像フォーラム	3,902	—	—	文化市民局
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

●学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動を行う市内NPO法人数の増加が課題となっていることから、今後も引き続き登録者数の増加に向けての取組を進める。
 ●引き続き、後援名義使用許可や文化芸術についての情報提供を行うことで、市民の自主的な文化芸術活動を支援するとともに、文化芸術が子どもたちや学生、地域の暮らしにも浸透し、発展するよう、「ようこそアーティスト文化芸術とくべつ授業」や学生の文化芸術に対する理解を深め、京都の多彩な文化芸術に親しむ機会を提供する「京都市キャンパス文化パートナーズ制度」(登録者数：3,123人(平成26年4月1日時点))などの取組を進める。

施策名	0601	すべての市民が京都のまちを支え、かつ誇りにできる文化芸術創造のまちづくり
-----	------	--------------------------------------

指標名	学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動を行う市内NPO法人数（団体）
-----	---------------------------------------

担当課	文化芸術企画課	連絡先	366-0033
-----	---------	-----	----------

1 指標の説明

学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動を行う市内に所在するNPO法人の認証数（各年度3月31日現在）

2 指標の意味

地域の暮らしのなかに文化芸術が息づいていることを示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：今年度の登録者数－前年度の登録者数
出典：内閣府NPOポータルサイト
※平成22年度までは京都府NPO協働ポータルサイト

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度
数値	342	351	9団体増	362	前年度（24年度）数値より20団体以上増加	97.0%

数値	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	

5 評価基準

最新の数値が
a：前年より20団体以上増加
b：前年の10団体以上、20団体未満増加
c：前年の0団体以上、10団体未満の増加
d：前年の0団体超、10団体未満の減少
e：前年の10団体以上減少

6 基準説明

法人数の増加が望ましいため、単年度目標値に対する増減で基準を設定した。
24年度：342団体
23年度：325団体
22年度：261団体
21年度：242団体
20年度：219団体

7 評価結果

24	25	26
a	b	c

指標名	京都市後援名義使用許可数（件）
-----	-----------------

担当課	文化芸術企画課	連絡先	366-0033
-----	---------	-----	----------

1 指標の説明

文化芸術に関する事業についての、京都市後援名義の使用許可件数

2 指標の意味

文化芸術に関する市民の自主的な活動を支援していることを示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度
数値	396	419	23件増	396	過去5年間（平成20～24年度）の最高値（平成24年度）	105.8%

数値	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
					H20 387件 H21 363件、H22 300件 H23 354件、H24 396件

5 評価基準

最新の数値が、過去5年間の
a：最高値以上
b：最高値未満～上中間値（最高値と平均値の間）以上
c：上中間値未満～平均値以上
d：平均値未満～下中間値（平均値と最低値の間）以上
e：下中間値未満

6 基準説明

使用許可数は毎年変動するものであり、一定安定的な数字と比較する必要があるため、過去5年間の数値をもとに、基準を設定した。
最高値：396（平成24年度）
平均値：360
最低値：300（平成22年度）

7 評価結果

24	25	26
c	a	a